

## withコロナに向けて

抗ウイルス商品

抗ウイルス商品 宴会場・客室向け

ウイルス対策商品 レストラン向け

ウイルス対策商品 間仕切り

ウイルス飛沫対策商品

### 抗ウイルス商品

抗ウイルス加工を施し、繊維評価技術協議会（織技協）が定めている試験をクリアした商品にのみ発行されるSEKマークを付けることの出来る商品になります。

抗ウイルス加工とは

繊維状の特定のウイルスの数を減少させる加工です。

目的は繊維製品に付着したウイルスの数を減少させて清潔に保つことになります。

そのため、ウイルスの働きを抑制したり、病気の治療や予防をしたりするものではありません。

### ウイルス対策商品

ウイルス感染の防止を目的とした商品です。

間接的な感染や飛沫からの感染などを防止することにつながる商品としております。

そのため、商品自体に抗ウイルス性があるわけではありません。

# 抗ウイルス加工商品 抗ウイルス性試験データ

## 抗ウイルス加工マーク



### 抗ウイルス加工

(繊維上の特定のウイルスの数を減少させます。)

認証番号 UK24A19

一般社団法人繊維評価技術協議会

剤名:大分類(中分類)

有機系(第四アンモニウム塩)

株式会社テキスタイル来住

## 抗ウイルス加工の注意表示



### 注意

●抗ウイルス加工は、病気の治療や予防を目的とするものではありません。

●抗ウイルス性試験は、ウイルス株: ATCC VR-1679(エンベロープ有)を25℃2時間放置して実施しています。

●抗ウイルス加工は、ウイルスの働きを抑制するものではありません。

## 抗ウイルス性試験方法と試験結果

試験機関:一般財団法人日本繊維製品品質技術センター

試料	ウイルス感染価(PFU/Vial) 常用対数平均値		減少値 【M】	抗ウイルス活性値 【Mv】
	接種直後 [log(Va)]	2時間作用後 [log(Vb)]		
無加工試料 綿標準布	6.90		0.4	3.0以上合格
		6.55		
抗ウイルス加工	原布 2時間作用後 [log(Vc)]	<2.30	—	4.6以上
	洗濯5回後 2時間作用後 [log(Vc)]	2.76	—	4.1

- ・性能試験方法: JISL 1922「繊維製品の抗ウイルス性試験方法」
- ・試験ウイルス株 ATCC VR1679(エンベロープ有)
- ・試験サンプル:カーテン用生地 0.4g
- ・作用条件:25℃、2時間
- ・感染価測定法:プラーク測定法

※SEKマークの付記用後、注意表示は一切変更できません。





## 安心をとりなりに ウィルス対策を



# 飲食店様向けウィルス対策 テーブルクロス

抗ウィルス加工マーク取得

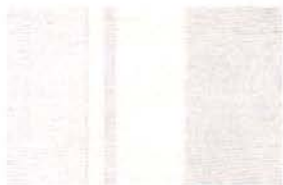


ようやく外出できるようになりましたが、ウィルスへの不安が無くなった訳ではありません。  
ご来店いただいたお客様の不安を少しでも軽減し、安心して食事いただけるよう  
ウィルス対策製品「抗ウィルス加工テーブルクロス」のご使用をおすすめいたします！！

チェアカバー  
にもご使用  
いただけます！

### LINEN TOUCH KSP-520 リネンタッチ

サイズ：195cm巾 x 40m乱 機能：静電気防止品



Q-560：オフホワイト



Q-561：シャンパン



Q-562：ブラウン



Q-563：ネイビー

### 抗ウィルス加工マーク取得

抗ウィルス性試験方法と試験結果

試験機関：一般財団法人日本繊維製品品質技術センター



抗ウィルス加工

(繊維上の特定のウィルスの数を減少させます。)  
認証番号 UK24A19

#### 注意

- 抗ウィルス加工は、病気の治療や予防を目的とするものではありません。
- 抗ウィルス性試験は、ウィルス株：ATCC VR-1679 (エンベロープ有) を 25℃で 2時間放置して実施しています。
- 抗ウィルス加工は、ウィルスの働きを抑制するものではありません。

試料	ウィルス感染数 (PFU/Vial) 常用対数平均値	減少率 [%]	抗ウィルス活性値 [対]
無加工試料 綿標準布	接種直後 [log(Va)]	6.90	0.4
	2時間作用後 [log(Vb)]	6.55	
抗ウィルス加工	原布 2時間作用後 [log(Vc)]	<2.30	4.6以上
	洗濯5回後 2時間作用後 [log(Vc)]	2.76	4.1

- ・性能試験方法：JISL 1922「繊維製品の抗ウィルス性試験方法」
- ・試験ウィルス株：ATCC VR-1679(エンベロープ有)
- ・作用条件：25℃、2時間
- ・感染価測定法：プラーク測定法